

# 中日友好環境保全センターのあゆみ

中日友好環境保護中心  
総工 師 欧陽 訥

1988年、竹下元首相と李鵬元総理が協議した結果、「中日平和友好条約締結十周年記念事業」として中日友好環境保全センター設立事業が取り決められた。日本政府が建物及び研究用機器等経費102億円の無償資金協力を提供し、中国政府が用地及び付属施設の整備等経費6,630万元を負担して、1992年5月8日、定礎式を盛大に執り行い、1996年5月5日開所した中日友好環境保全センターは中日環境協力の結晶である。

日本政府はセンターの設立を支援するため、1992年から1995年までの3年間プロジェクト方式の技術協力をを行い、日本人専門家の派遣、訪日研修生の受け入れ及び研究機材の調達を通じて力強く支援し、センターの運営に対する確固たる基礎づくりを行ってきた。

開所した直後、「中国環境領域における研究、研修、モニタリング、教育普及などの分野に指導的な役割を發揮する」というセンターの目標を達成させるため、日本政府がフェーズ 1 の技術協力を実施し、環境戦略と環境政策の研究、環境情報管理、環境モニタリング技術、公害防止技術、環境分析測定技術、環境教育普及、更にISO14001の推進及び環境標準物質の開発について、幅広く、力強く協力活動を実施してきた。6年間の協力によって、当センターは国家環境保護総局直属の総合研究・管理執行機関、国際環境技術協力と国際交流を行う窓口として、中国の環境政策研究、環境情報、環境教育及び環境分析測定の中心になり、環境モニタリング技術及び公害防止技術の研究・開発の重要な研究機関になっており、その斬新な姿は中国の首都北京の街に聳え立っている。

中日友好環境保全センターを拠点として中日環境協力を更に展開するため、フェーズ 2 フローアップに引き続き、2002年からフェーズ 3 の技術協力がスタートし、中国の環境問題に対して四つの領域で協力をを行っている。

当センターの歩みを回顧すると、中日間友好交流の歴史は14年間にわたり、環境技術協力の10年間の実績を経て、実りある協力であることが実

証された。JICAの泉堅二郎理事は「中日友好環境保全センタープロジェクト技術協力が世界にも誇れる巨大な成果を上げた」と述べ、中国科学技術部国際司 苑曙光副司長は「中日友好環境保全センターが中日政府間技術協力のための明るい灯台である」と高く評価した。

素晴らしい協力成果を上げると同時に、友好と友情も深められた。当センターに派遣された計29名の日本人長期専門家及び63名の短期専門家が、中国の環境保全事業に対し卓越した貢献を行った。これは中国政府と人民に高く評価され、八島継男、今井千郎及び小柳秀明専門家が中国の友誼賞を受賞し、国家指導者の会見を受けた。計54名の訪日研修生が日本の技術と友情を持ち帰って、中国の環境保全事業及び国際環境協力事業に活躍し、当センターの中堅技術者になっている。中日国交正常化30周年を迎えた現在、当センターの技術協力によって築いてきた中日間の友情と友誼は高く評価されるべきだと思っている。

更に、当センターは中日環境協力の窓口として、「100都市環境情報ネットワーク構築」の無償資金協力及び人材育成の第二国研修、「中日環境モデル都市構想」の円借款事業及び技術支援、「東アジア酸性雨モニタリングネットワーク」の支援及び酸性雨防止第二国研修、「公害防止管理者制度に関する国別特設研修」を始め数多くの中日環境協力案件に対し、実施あるいは支援を行っている。今年、中日環境協力の成果をアジア途上国に普及するため、第三国研修の協力について日中双方が合意したことを受けて、当センターはこのプロジェクトの実施のための準備を行っているところである。

中日友好の源は遠く、流れは長い。中日環境協力も永遠に継続していくと思う。中日友好環境保全センターは、日本政府、関係機関及び日本社会各界の支援の下で、これからも中日環境協力の窓口として一層の役割を果たすものと確信する。

(オウヤン ネイ)